

令和 2年 月 日

二宮町長
村田 邦子 様

二宮町総合計画審議会
会 長 真鍋 明裕

第2期二宮町総合戦略素案について

令和2年2月7日付け二第 158 号により諮問を受けました第2期二宮町総合戦略素案について、二宮町総合計画審議会としての意見書を提出いたします。

当意見書は、示された素案に対して、委員それぞれの立場で、また町民の視点から真摯に意見を述べ、それらを総合計画審議会として集約したものであることから、ご高覧のうえ第2期総合戦略策定及び事業の推進にご反映ください。

第2期二宮町総合戦略の素案について（総論）

第2期二宮町総合戦略に位置づけられた4つの基本目標と9つの施策について、各委員の立場やこれまでの経験を生かし、町民の視点から議論を深め、二宮町の今後の取り組みに対して有効なものとなるように審議しました。

全国的な少子高齢化や人口減少の加速化による様々な課題に対し、二宮町が平成27年度に策定した「二宮町総合戦略」の取り組みの成果として、近年、町の人口動態における社会増（転入超過）が連続していることなどは、これまでのまちづくりの効果の現れだと考えられます。しかしながら、施策の展開及び推進を行う主要な事業の設定によっては、地域社会への効果が十分達成できていない部分も見受けられます。

今後、これまでの課題を踏まえつつ、第2期二宮町総合戦略の3年間の取り組みの中で、将来に渡って選ばれるまちづくりを推進するために、町が取り組むべき施策の方向性として、以下の点を考慮することが望まれます。

はじめに、一色小学校区地域再生協議会の活動やスクールカウンセラー等の配置、小中学校の完全給食など、二宮町の魅力として確立した取り組みを継続しながらも、町ならではの地域資源を生かした新たな取り組みで、二宮町らしい地域戦略を打ち出し、人を引き付ける魅力を創出することが重要です。

また、新たな計画を策定するにあたり、いまいちど町民の視点に立ち返り、課題や取り組みなどがより理解される適切な説明を加える必要があります。特に今回新たに加えられたSDGsの視点は、「見せ方」だけでなく、SDGsそのものの認知を向上させる工夫も加えるとよりよいと考えます。

最後に、施策の進捗をはかるためのアンケートのあり方について、よりの確に民意をはかるためにも設問の内容や評価方法などについて改めて検討する必要があります。また、施策の進捗をはかる手段としてだけでなく、事業や取り組みを周知する手段としてアンケートの実施を捉えるなど、事業効果をより高めるために、柔軟で幅広い視点を持つ必要があります。

今後も「住んでよかった」「住み続けたい」と思えるようなまちづくりを進めていくために、福祉、教育、産業、地域など、バランスよく町の総合力を高め、すべての町民が将来に渡り安心や豊かさを享受できる「二宮町総合戦略」となることを期待しています。

二宮町総合計画審議会意見書（各論）

基本目標 1：ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる

【内容について】

- ・ 安心・安全はまちづくりの土台であるため、安心して住むことのできる町であるために、地域の実情をふまえながら着実に安全な環境を作り上げる必要がある。
- ・ 地域で支えあうシステムの構築には、高齢者のみならず、多文化共生を踏まえた多世代による支えあいが求められる。施策 1－2 には、子育て・障がい関連の施策についても触れることが考えられる。

【KPI について】

- ・ 「消防団の充足率」は、消防団と職場との距離にも要因しているため、雇用環境とも関連させて取り組むことが考えられる。また、基本目標 2 とも関連させて「職住近接度」のような指標の設定も考えられる。
- ・ 指標に「イベントの開催数」と「参加人数」と設定に差異があるため、全体の指標の整合性も踏まえつつ、進捗を測定するために適切な指標であるかを検討する必要がある。
- ・ 「地域活動に参加している人の割合」や「認知症サポーター養成講座の受講数」等は、将来的な発展に寄与する人材の発掘にも繋がるため、単なる数ではなく、その内訳にも着目する必要がある。

基本目標 2：新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる

【内容について】

- ・ 教育の質の向上には、児童生徒のみならず、教員の職場環境を整備する必要がある。例えば、業務量の軽減は、教育方法や教材研究などに充てる時間の確保につながるため、教員に関連する施策も考えられる。
- ・ 小中一貫教育の検討は、未来を担う子どもの育成にとって重要と考える。検討の進捗状況等、きめ細やかな情報提供に努める必要がある。また、町の特徴となるように、多様な個性に応じたきめ細かい対応とともに、多様な個性が長所として生かされる教育機会の確保も十分に検討する必要がある。

【KPI について】

- ・ 「プロモーション事業に協力している転入者数」は、独自で取り組んでいる活動とも、積極的に連携を図りながら、互いに補完しあって発展していけると良い。
- ・ 「訪町観光客数」は、旅行者のみに限定した意味となるため、町外に居住しつつも、二宮町と関わりを持ちながら支えあう存在となる「関係人口」に着目することが考えられる。
- ・ 教育の質の充実度を測定するために、「児童生徒 1 人あたりの教育費」なども指標の選択肢として考えられる。

基本目標 3 : 子どもを育てやすいまちをつくる

【内容について】

- ・ 保育体制の充実のため、保育士の確保や安定した待遇を支援する必要がある。
- ・ 病児保育は、仕事をしながら安心して子育てできる環境を整備するうえで有効になると考えられる。

【KPI について】

- ・ 子育て世代的確なニーズを把握し、課題に応じた施策の推進が重要である。ニーズの把握方法の検討及び課題を導き出せる指標の設定が必要だと考えられる。

基本目標 4 : 地域産業の振興を図り、雇用の場をつくる

【内容について】

- ・ 町は面積規模が小さいため企業誘致等は難しいが、コワーキングスペース等、町の規模でも可能な新たな多様な働き方に向けた環境づくりに取り組むことが考えられる。
- ・ 事業者の経営の安定と躍進を支援するためにも、融資等の支援の充実を図ることが重要である。
- ・ 町内の企業規模が小さいので、例えば、新採用者を一同に会した合同入社式の開催など、勤労者のつながりや地域への愛着を育める仕組みなどの基盤強化を検討することも考えられる。
- ・ 二宮ブランドは商品化のみならず、観光分野等と連携しながら、販売意欲の向上が図られる事業展開をする必要がある。
- ・ 「オリーブ」や「吾妻山」等の強みとなる地域資源に焦点を絞り、積極的に打ち出すなど、メリハリのある施策の推進を図ることが必要である。

【KPI について】

- ・ 起業希望者が増えつつあるため、「起業件数」など、町内における起業の機運の高まりや、起業へのハードルの高さを測定できるような指標を設定することが考えられる。
- ・ 地域農林業の活性化の進捗を図るために、例えば、遊休・荒廃農地の面積削減や、単位面積（又は1農家当たり）の収穫量など、もっと多様な視点を踏まえた指標の設定をしても良いと考えられる。
- ・ 有害鳥獣捕獲件数やブランドの新規認定商品数など、施策の進捗をはかる KPI として適切でないと思われるものもあるため、指標について検討する必要がある。